

Nara National Museum

奈良国立博物館

だより

第 **121** 号

令和4年 4・5・6月



陶枕（大安寺旧境内出土）（奈良文化財研究所）

特別展

大安寺のすべて

— 天平のみほとけと祈り —

4月23日(土)～6月19日(日) 東西新館

特別展

貞享本當麻曼荼羅修理完成記念

中将姫と當麻曼荼羅(予告)

— 祈りが紡ぐ物語 —

7月16日(土)～8月28日(日) 西新館

名品展

珠玉の仏たち

通年
なら仏像館

わくわくびじゅつギャラリー

はっけん!ほとけさまのかたち(予告)

7月16日(土)～8月28日(日) 東新館

中国古代青銅器

通年
青銅器館

特別展

大安寺のすべて

—天平のみほとけとけと祈り—

4月23日(土)～6月19日(日)

現在、JR奈良駅の一キロメートルほど南方に位置する大安寺は、わが国最初の天皇発願ほつがんの寺を原点とし、奈良時代には、東大寺や興福寺などとともに官大寺（国家の大寺院）の一つに数えられました。一二五〇年の時を経て今も大安寺に伝わる九体の仏像は、奈良時代を代表する木彫群の一つです。旧伽藍がらんの発掘調査で出土した品々は、往時の壮大な堂塔や華やかな営みを物語ります。菩提僊那ぼだいせんな、空海、最澄をはじめ、千人にもおよぶ国内外の僧侶たちが大安寺に集い、後に諸方面で活躍をしました。天智天皇が造像したかつての本尊・釈迦如来像は、平安時代には奈良・薬師寺金堂の薬師三尊像よりも優れていると評され、古代から中世の仏像制作に大きな影響を与えました。本展では、このように時代をリードする大寺院であった大安寺の歴史を様々な角度からご紹介します。大安寺の九体の天平仏（現在の本尊・十一面観音立像〈写真右上〉）は一〇〇年ぶりの寺外公開！や、かつての寺宝、そして大安寺ゆかりの品々が一堂に会するまたとない機会です。



重要文化財 十一面観音立像（奈良・大安寺）※4月23日～5月22日展示



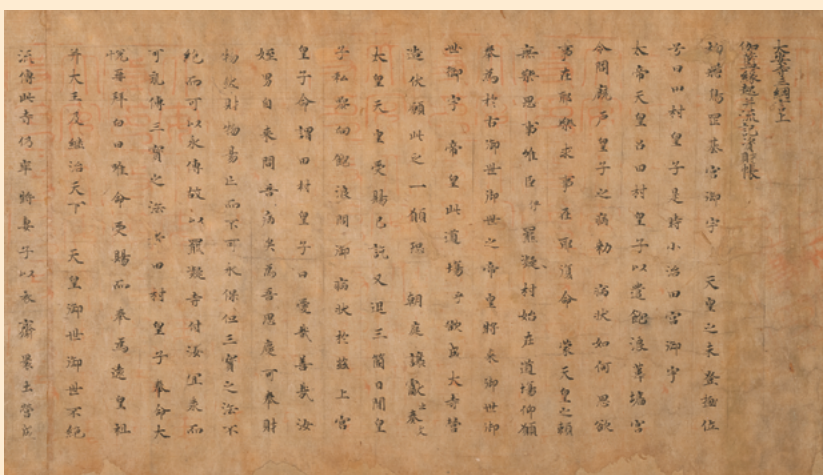
重要文化財 虚空蔵菩薩像（東京国立博物館）※6月24日～6月19日展示



国宝 金銅透彫舍利容器（奈良・西大寺）



風鐸（大安寺旧境内出土）（奈良市埋蔵文化財調査センター）



重要文化財 大安寺伽藍縁起并流記資財帳（千葉・国立歴史民俗博物館）※巻き替えあり

特別展

貞享本當麻曼荼羅修理完成記念

中将姫と當麻曼荼羅

―祈りが紡ぐ物語―

7月16日(土)～8月28日(日)

貞享本當麻曼荼羅は、奈良・當麻寺の根本本尊である綴織當麻曼荼羅（国宝、八世紀）の最も精密で色鮮やかな同大の写しで、江戸時代の貞享三年（一六八六）に完成しました。本展は貞享本の本格修理が完成したことを記念し、修理に伴い新たに発見された資料とともに、およそ四メートル四方と巨大ながら細部まで美しく描かれたその姿をご覧いただけます。そして、極楽往生を望み、綴織當麻曼荼羅の成立に深く関わったと伝承される奈良時代の貴族の娘・中将姫に注目します。女人往生の主人公として長く人々に尊ばれ、當麻曼荼羅信仰を支えた中将姫イメージの展開に迫ります。



重要文化財 當麻曼荼羅 貞享本(奈良・當麻寺)



中将姫坐像(圓字一人)(京都・大雲院)

わくわくびじゅつギャラリー

はっけん! ほとけさまのかたち

7月16日(土)～8月28日(日)

ほとけさまには、さまざまなかたちの特徴があります。そしてそれぞれのかたちには、祈りや意味が込められています。本展では、彫刻や絵画などの作品に表されたほとけさまのかたちに注目し、その不思議に迫ります。こどもから大人まで作品鑑賞を楽しんでいただけるよう、当館公式キャラクター「ざんまいず」がわかりやすくナビゲートします。また、ほとけさまをスケッチする、仏像のレプリカに触れるなど、体験的に楽しめる展示内容となっています。さまざまな発見を通して、仏教美術の魅力を感じてください。



重要文化財 多聞天立像(当館)



阿彌陀如来立像(裸形)(当館)



展覧会をナビゲートする「ざんまいず」

般若寺の弓箭及箆について —「大安寺宝物」と正倉院宝物—

当館学芸部研究員 伊藤 旭人

令和四年(二〇二二)四月二十三日、特別展「大安寺のすべて—天平のみほとけと祈り—」が開幕を迎える。本展に出品されている弓箭及箆(奈良・般若寺蔵、図1)は、奈良時代(八世紀)に制作された弓箭・箆の遺品である。かつては大安寺の所蔵であったが、江戸時代中期に般若寺へ移されて現在に至る。「重宝一モノコラス焼失」といわれる至徳二年(一三八五)の大安寺火災を奇跡的に免れた品であることが記録により判明している。

本品は古くから「神功皇后三韓退治ノ時御所用」の伝承をともなう弓箭具として知られており、江戸時代には儒学者新井白石が上代の弓箭具のひとつに本品を取り上げ、さまざまな記録を遺している(新井白石著「本朝軍器考」巻四、宝永六年)。次に述べるように、いずれ

も古様な特徴を示し、その作域からは当代の優れた工芸技術を見ることができ

る。弓は、木材の単材を削って作られている。このような弓は丸木弓と呼ばれ、奈良時代以前の弓に見られる特徴である。今日の弓道で使用されるような弓には、耐久性や弾力性を持たせるために竹材が含まれてい



図1 弓箭及箆



図2 箆部分

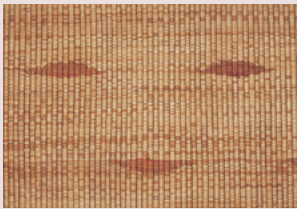


図3 御書箱(正倉院宝物 北倉3)部分

る。しかし、本品は一木彫成であることよって引き代が小さくなるため、弓を引くには相当の力が必要であったはずである。表面は現状素地を呈しているが、制作当初は黒漆塗であったと考えられる。

六本セットの箆は、矢羽を亡失するものの、鉄製の鏃は完存する。鏃の形状はそれぞれ異なり、剣先形や台形、鉛形、さらにはイカのような形を成すものなどがある。このような鏃の起源は諸説あるが、朝鮮半島三国時代(四〜六世紀)の古墳からは近似する鏃の出土例があり、大陸に起源をもつ可能性も考えられる。日本国内でも近似品の出土例はあるが、伝世品では正倉院宝物や法隆寺献納宝物の箆の鏃が知られている程度であり、大変貴重である。

これらの箆を入れて背負うための用具である箆は、植物の茎の表皮を取り去った細木を芯とし、蔓を編み込んで作られている。背板に取り付けられた方立(箆を収めるポケット)には、染料で染めた蔓を用いて小菱文を編み出す(図2)。この文様を見て、筆者の頭の中に、ふとある作品が思い浮かんだ。それは、正倉院宝物「御書箱(北倉三)である。御書箱とは、聖武天皇自筆の雑集や光明皇后自筆の杜家立成(いずれも北倉三)などを納めていた由緒ある品。本品と同じく、植物の蔓を用いて作られた被蓋造の箱である。この二つの作品にあらわされた小菱文に着目すると、大きさに若干違いがあるものの、菱形の輪郭線の編み出し方は全く同一の手法である(図3)。御書箱は、植物材質調査によって用いられた植物が判明しているが、本品については近年の調査実績がなく、現在諸説が提示されるまでに留まっている。今後、本品の植物材質調査の実施が叶えば、御書箱との近似性を検討するうえで重要な結果を得られることだろう。

以上のように、本品は弓箭・箆のいずれも古様な弓箭具の特徴をもち、なかでも箆と箆には正倉院宝物との近似が認められる。同時期の作例が少ない当代において、その存在意義は計り知れない。まさに「大安寺宝物」と呼ぶに相応しい作品である。長きにわたって大安寺を護り、そして人々に守られてきた本品に思いを馳せながら、奈良時代の工芸技術の一端に触れていただけは幸いである。

主要参考文献

- 酒井元樹「般若寺と春日大社の弓矢」『MUSEUM』六一九、二〇〇九年
- 木村法光「年次報告植物材質調査」『正倉院紀要』六、一九八四年、宮内庁正倉院事務所
- 東京国立博物館編「伽耶文化展」一九九二年、朝日新聞社
- 奈良国立博物館編「第七十三回 正倉院展目録」二〇二二年、奈良国立博物館

出陳一覧

名品展

珠玉の仏たち

なら仏像館

令和4年4月5日(火)～

彫刻

〔第1室〕

- 阿弥陀如来立像 個人
- 観音菩薩立像 文化庁
- 不動明王立像 正智院
- 天部形立像 法明寺
- 普賢菩薩坐像 個人
- 不動明王及び二童子立像 個人

〔第2室〕

- 阿閼如来坐像 西大寺
- 天部坐像 当館
- 文殊菩薩坐像 薬師寺
- 毘沙門天立像 如法寺
- 菩薩立像 金童寺

〔第3室〕

- 阿弥陀三尊像 峰定寺
- 阿弥陀如来立像 善集院
- 阿弥陀如来立像 当館
- 阿弥陀三尊像 個人

〔第4室〕

- 三尊博仏 南法華寺

〔第5室〕

- 誕生釈迦仏立像 正眼寺
- 誕生釈迦仏立像 個人
- 誕生釈迦仏立像 悟真寺
- 誕生釈迦仏立像 当館
- 観音菩薩立像 法徳寺
- 観音菩薩立像 興福院
- 観音菩薩立像 法隆寺
- 観音菩薩立像 観心寺
- 観音菩薩立像 金剛寺
- 観音菩薩立像 個人
- 如来坐像 新薬師寺
- 如来坐像 当館
- 誕生釈迦仏立像 個人
- 二仏並坐像 当館
- 菩薩立像 個人
- 十一面観音菩薩立像 個人
- 力士立像 個人
- 如来立像 光明寺
- 如来立像 当館
- 釈迦如来坐像 園城寺
- 誕生釈迦仏立像 薬師寺
- 勢至菩薩立像 当館

- 六角形博仏(伝三重県天華寺出土) 当館
- 塑像片(奈良県定林寺出土) 当館
- 小型独尊博仏(三重県夏見廃寺出土) 当館
- 塑像断片(迦楼羅頭部ほか) 当館
- (奈良県川原寺出土) 明日香村教育委員会
- (滋賀県雪野寺出土) 福命寺

- 如来倚像(押出仏) 当館
- 観音菩薩立像(押出仏) 当館
- 四天王立像残片 西大寺
- 〇広目天立像 興福寺
- 〇釈迦如来立像 京都・法明寺
- 如来立像 当館
- 〇天神坐像 興喜天満神社
- 〇重源上人坐像 浄土寺
- 〇金剛力士立像 金峯山寺

〔第7室〕

- 〇光背(二月堂本尊所用) 東大寺
- 観音菩薩立像 当館
- 〇観音菩薩立像 文化庁
- 〇観音菩薩立像 勝林寺
- 〇十一面観音菩薩立像 元興寺
- 〇千手観音菩薩立像 園城寺
- 〇十一面観音菩薩立像 地福寺
- 〇十一面観音菩薩立像 勝林寺
- 〇十一面観音菩薩立像 新薬師寺
- 〇十一面観音菩薩立像 当館

〔第8室〕

- 〇如来三尊像 当館
- 〇如来三尊像 個人
- 阿弥陀如来坐像 歡喜寺
- 薬師如来坐像 玉峰寺
- 〇阿弥陀如来立像(裸形) 浄土寺
- 〇梵天立像 秋篠寺
- 〇救脱菩薩立像 秋篠寺

〔第9室〕

- 〇十一面観音菩薩立像 松尾寺
- 〇十一面観音菩薩立像 西光院
- 〇准胝観音菩薩立像 文化庁
- 〇明星菩薩立像 弘仁寺
- 地蔵菩薩立像 法徳寺
- 地蔵菩薩立像 万福寺
- 不動明王立像 妙法院



〇不動明王立像(妙法院)

〔第10室〕

- 不動明王立像 妙法院

〔第11室〕

- 馬頭観音菩薩立像 浄瑠璃寺
- 愛染明王坐像 当館
- 不動明王立像 当館
- 大威徳明王騎牛像 当館

〔第12室〕

- 〇蔵王権現立像(五軀) 大峯山寺
- 十二神将立像(子〱巳神) 当館
- 持国天立像・増長天立像 法徳寺
- 天部形立像 個人
- 二天王立像 室生寺

- 毘沙門天立像 高尾地蔵堂
- 帝釈天坐像 室生寺
- 毘沙門天立像 当館

〔第13室〕

- 〇金剛力士立像(内納入品) 金峯山寺
- 阿弥陀如来立像 浄土寺
- 〇菩薩面(三面) 浄土寺
- 破損仏像残欠コレクション 当館

名品展

中国古代青銅器 坂本コレクション

青銅器館



中国古代の商(殷)から漢代に製作された、青銅器の逸品を展示しています。

※〇〥国宝、〇〥重要文化財
※展示品は都合により一部変更する場合があります。

【表紙解説】

陶枕

大安寺旧境内出土
 一括（表紙写真はそのうちの一点）
 長一・三 cm 高五・八 cm
 中国・唐（八世紀）
 奈良文化財研究所

中国から舶載された唐三彩で、方形・中空につくられる。用途には諸説あり、枕、書字の際の腕置き、あるいは仏具だったのか、明らかでない。大安寺旧境内の金堂付近で約三百片、復元すると五十個体におよぶ陶枕が出土した。

大安寺の造営には、遣唐僧と共に唐へ渡った道慈が帰朝後に深く関与したとみられ、数々の陶枕は道慈が唐から持ち帰ったのではと考えられている。陶枕にあしらわれた種々の花文や三彩釉の彩りは、初唐から盛唐の華やぎを伝えるものである。

中川 あや（当館学芸部企画室長）

◆特別展「大安寺のすべて―天平のみほとけと祈り」にて展示



本展で展示する大安寺旧境内出土の陶枕片 ※表紙は上中央（奈良文化財研究所・奈良市埋蔵文化財センター）

◆奈良国立博物館賛助会

令和4年4月1日現在、特別支援会員1団体、特別会員5団体、一般会員（団体）18団体、一般会員（個人）95名のご入会をいただいております。

〔特別支援会員〕 (株)読売新聞大阪本社

〔特別会員〕 (株)奥村組西日本支社、(株)朝日新聞社、(株)ライブアートブックス、(株)ゴードー

〔団体会員〕 日本通運(株)関西美術品支店、(株)尾田組、(株)伏見工芸、(株)木下家具製作所、(株)天理時報社、(株)きんでん奈良支店、奈良信用金庫、ひかり装飾(株)、(株)南都銀行、小山(株)、オフィス・カワイ、(株)葉風泰夢、桃谷樓、小路谷写真(株)、校倉な会、結の会

〔個人会員（新規）〕

植村 真司様 令和4年1月ご入会
 首藤 征志様 令和4年1月ご入会
 竹中 直道様 令和4年3月ご入会

◆キャンパスメンバーズ

特別展「大安寺のすべて」では、キャンパスメンバーズを対象に、学芸員による解説付き鑑賞会を実施します。

詳細は、当館ホームページまたは右記QRコードよりご確認ください。

令和4年4月1日現在、「キャンパスメンバーズ」会員の大学等は以下の通りです。

大阪大谷大学、大阪大学・大阪大学歯学部附属歯科技工士学校、関西大学・関西大学第一高等学校・関西大学北陽高等学校・関西大学高等部、関西学院大学・聖和短期大学・関西学院高等部・関西学院千里国際高等部・関西学院大阪インターナショナル、京都外国語大学・京都外国語短期大学、京都工芸繊維大学、京都女子大学・京都女子高等学校、京都精華大学、京都大学、京都橘大学、近畿大学文芸学部・近畿大学大学院総合文化研究科、嵯峨美術大学・嵯峨美術短期大学、四天王寺大学人文・社会学部、就実大学人文科学部、帝塚山大学、天理大学、同志社大学・同志社女子大学・同志社高等学校・同志社香里高等学校・同志社女子高等学校・同志社国際高等学校、奈良教育大学、奈良県立大学、奈良工業高等専門学校、奈良女子大学、奈良先端科学技術大学院大学、奈良大学、佛教大学、立命館大学・立命館大学大学院、龍谷大学・龍谷大学短期大学（以上、五十音順）



◆インターネット◆

奈良国立博物館では、ウェブサイトやTwitter、YouTubeでの情報発信をおこなっています。

「ならはく教育普及室」<<https://edu.narahaku.go.jp/>>のサイトでは、文殊の知恵から生まれた「ちえひろ丸」（知恵広まる）や「ぞんまいず」たちが様々なイベントや読みものをご紹介します。



TwitterやYouTubeでは、最新の情報や季節の話題、ここでしか見られない貴重な動画などをご覧いただけます。ぜひ、フォロー、チャンネル登録をしてみてください。

Twitterアカウント
 (@narahaku_PR)



YouTubeチャンネル
 (【公式】ならはく
 チャンネル)



新型コロナウイルス感染症対策について

当館では引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大予防のための対策を行っています。ご来館に際しては、以下のとおり、ご協力をお願いいたします。

37.5℃以上の発熱や風邪の症状、だるさ・息苦しさなどがある方、過去2週間以内に発熱や風邪症状で受診や服薬などをされた方、新型コロナウイルス陽性とされた方との濃厚接触がある方、過去2週間以内に政府から入国制限・入国後の観察期間を必要とされる国や地域への訪問歴及び当該地在住の方との濃厚接触がある方は、ご来館をお控えください。

入館前に検温を実施いたします。37.5℃以上の発熱が認められた場合には、ご入館をお断りいたします。

混雑状況により入館制限を実施する場合がございます。入館中はマスクを着用し、咳エチケットにご留意ください。アルコール消毒や手洗いにご協力ください。

展示室内では会話を控え、展示ケースには触れないでください。他の方との距離を保つようにしてください。

なお、展示やイベント等につきましては、新型コロナウイルス感染症拡大の状況に応じ実施内容に変更が生じる可能性があります。あらかじめご理解いただけますようお願いいたします。

美術や歴史のこと、博物館の活動など、当館ならではの多彩なテーマ、日頃聞くことの出来ない「通(つう)」なお話をご用意して、皆様をお待ちしております。どうぞお気軽にご参加ください。

■4月17日(日)

「薬師如来像をめぐる」

伊藤 旭人(当館学芸部研究員)

薬師如来は、左手に良薬の入った壺「薬壺」を執るすがたがよく知られています。日本では平安時代に薬師信仰のブームが起き、多くの彫像が造られました。今回は平安中期(10~11世紀)の作例を中心に上げ、その信仰背景と魅力をご紹介します。

[受付期間 3月28日(月) 10:00~4月16日(土) 17:00]

■5月15日(日)

「文化財を加害するムシの話」

小峰 幸夫(当館学芸部研究員)

自然界には多くの昆虫があり、その中には博物館の収蔵品(文化財)を加害する昆虫もいます。害虫から文化財を守るためにはまず、相手(害虫の種類)を知る必要があります。文化財を加害する害虫の種類やその防除法についてお話いたします。

[受付期間 4月25日(月) 10:00~5月14日(土) 17:00]

■6月19日(日)

「文化財の健康診断—X線CT調査でみる文化財—」

安藤 真理子(当館学芸部研究員)

2017年に大型文化財用X線CTスキャン装置を導入して以来、奈良博は数々のCT調査をおこなってきました。文化財の内部に秘められた構造・制作技法・劣化状況・修理歴など、実際のCT調査結果と共にご紹介します。

[受付期間 5月30日(月) 10:00~6月18日(土) 17:00]

■7月17日(日)

「平安貴族と装飾写経」

齋木 涼子(当館学芸部列品室長)

写経は、本来経典を学んだり、功德を積むために行うものでした。平安時代、貴族たちは趣向を凝らし飾り立てた写経を作り出します。その背景にある信仰と文化について、ご紹介します。

[受付期間 6月27日(月) 10:00~7月16日(土) 17:00]

■8月7日(日)

「仏教美術以前の日本美術」

井上 洋一(当館長)

奈良博のコレクションは仏教美術だけではなく、世界の人々を魅了する縄文土器や土偶、そして謎多き銅鐸や銅矛たちもいるのです。今回は普段あまり出番のない彼らを主役に、縄文・弥生の美術にまつわる「通」なお話をしたいと思えます。

[受付期間 7月18日(月・祝) 10:00~8月6日(土) 17:00]

■9月18日(日)

「明恵上人をめぐる仏教絵画」

谷口 耕生(当館学芸部教育室長)

鎌倉時代はじめに明恵上人によって創建された京都梅尾(とがのお)高山寺には、創建期にさかのぼる仏画の優品が数多く伝われます。その代表作である国宝仏眼仏母(ぶつげんぶつも)像を中心に、造形に込められた明恵の仏教信仰を読み解きます。

[受付期間 8月29日(月) 10:00~9月17日(土) 17:00]

【時間】 各回とも14:00~15:30 (13:30開場)

【会場】 当館講堂

【定員】 各回90名(事前申込先着順)

【申込方法】 当館ホームページより必要事項をご入力の上、お申し込みください(WEB申込のみとなります)。

【受付期間】 各講座欄をご覧ください。

※聴講無料(展覧会観覧券等の提示は不要です)。

※聴講には事前申込が必要です(当日申込でのご参加はできません)。

※入場の際には、受付完了メール画面をご提示ください。

※応募は各回お1人様1回でお願いいたします。

※定員に達し次第締め切りとさせていただきます。

◆特別展「大安寺のすべて—天平のみほとけと祈り—」

●4月29日(金・祝)

「大安寺伽藍縁起并流記資財帳の考古学」

上原 真人 氏(京都大学名誉教授)

[受付期間 3月21日(月・祝)10:00~4月4日(月) 17:00]

※当選者には、4月15日(金)までに参加証を郵送します。

●5月21日(土)

「大安寺の祈りと営み—出土品を中心に—」

中川 あや(当館学芸部企画室長)

[受付期間 4月4日(月) 10:00~4月18日(月) 17:00]

※当選者には、4月29日(金・祝)までに参加証を郵送します。

●6月11日(土)

「大安寺の仏像」

稲本 泰生 氏(京都大学教授)

[受付期間 5月2日(月) 10:00~5月16日(月) 17:00]

※当選者には、5月27日(金)までに参加証を郵送します。

【時間】 13:30~15:00(13:00開場)

【会場】 当館講堂

【定員】 各回90名(事前申込制)。抽選による座席指定制です。

【申込方法】 当館ホームページより必要事項をご入力の上、お申し込みください(WEB申込のみとなります)。

【受付期間】 各講座欄をご覧ください。

※当選者には参加証をお送りいたします。当日必ずお持ちください。

※詳細はホームページをご確認ください。

※聴講無料(展覧会観覧券等の提示は不要です)。

※応募は各回お1人様1回でお願いいたします。

❖ 特別展「大安寺のすべて—天平のみほとけと祈り—」関連イベント ❖

■「小花もようのかざりタイルをつくろう!」■

大安寺のすべて展で展示されている陶枕(やきものまくら)に描かれた小さな花の模様をスタンプし、色を塗ることでキレイなタイルが完成します。

親子向けのワークショップですが、大人の方も参加可能です。

【日時】 5月5日(木・祝) ①10:00~11:30
②13:00~14:30 ③15:00~16:30

【定員】 各回10組 抽選
※応募期間 4月1日(金)~4月20日(木)

【場所】 奈良国立博物館 地下回廊

【参加費】 無料

※ただし、本展覧会の鑑賞券または半券、奈良博プレミアムカード等の提示が必要です。

【申込方法】

奈良国立博物館HP ⇒ 「講座・催し物」 ⇒ 「ワークショップ」 ⇒ 「小花もようのかざりタイルをつくろう」の申込画面、または下記のQRコードより、必要事項を記入のうえお申し込みください。



応募フォーム

◆「奈良博プレミアムカード」

「国立博物館メンバーズパス」のご案内

当館の特別展及び国立博物館4館の平常展をお得にご観覧いただける「奈良博プレミアムカード」、国立博物館4館の平常展を無料で観覧できる「国立博物館メンバーズパス」を販売しております。WEBからも購入いただけます。

詳しい情報は下記QRコードからご確認いただくか、当館観覧券売場へお問い合わせください。



プレミアムカード



メンバーズパス

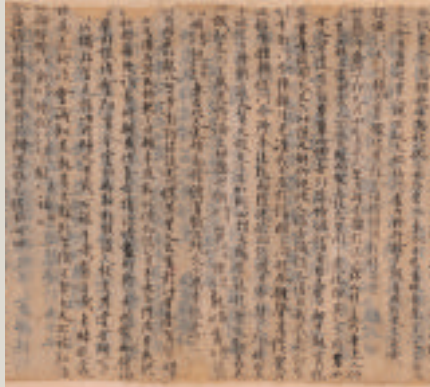
特別展「大安寺のすべて 一天平のみほとけと祈り」
※4/23～5/22展示

展示品の
みどころ

名品展「珠玉の仏たち」

にほんりょうい き
日本靈異記 上巻

国宝
紙本墨書
縦28.7cm
長894.0cm
平安時代(10世紀)
奈良 興福寺



平安時代初めに成立した仏教説話集で、上中下の三巻からなる。雄略天皇から嵯峨天皇までの説話が時代順に並ぶ。編者は薬師寺僧の景戒。本品は巻末に延喜4年(904)の年紀があり、そこから時期をあまり隔てない時期の写本と考えられる。完存する上巻の古写本として貴重である。

上巻第三十二は、大和国添上郡山村の人が、大安寺本尊に祈願して罪を免れた話である。聖武天皇が狩りを行っていた際、逃げた鹿が民家に逃げ込み、その家の人たちが事情を知らず食べてしまったため、捕らえられた。そこで大安寺本尊に救ってもらおうと、人に頼んで寺に参詣してもらい、また自分たちが朝廷に連行される途中、道から拝めるように、寺の南門を開けてくれるよう寺に依頼した。すると皇子が誕生したことで、罪が許されたという。

大安寺が朝廷や皇族だけでなく、幅広い層の人々からも信仰を集め、また本尊の丈六釈迦が特別な靈験仏であると信じられていたことを示すエピソードである。

齋木 涼子(当館学芸部列品室長)

あみだによらいりゆうぞう
阿弥陀如来立像

木造 漆箔
像高20cm
鎌倉時代(12世紀)
兵庫 浄土寺



比較的近年、浄土寺で確認された逆手の阿弥陀如来像。わずか20cmの小像だが、精悍な表情や隙のない彫技は鎌倉時代の力量ある仏師の手になることを予感させ、実際の大きさ以上の存在感がある。

その形姿は建久6年(1195)快慶作の浄土寺本尊阿弥陀三尊像のうち中尊阿弥陀如来と共通する。さらに渦巻状の頭髪や頬の張った顔だちが右脇侍の宝冠にあらわされた化仏坐像[右図]と酷似する点も重要で、このことは阿弥陀三尊像と制作時期が近接し、作者が快慶である可能性をつよく示唆している。

この像はいま、近世に補われた鳥籠型の宮殿内に安置される。あるいは明治時代初期まで存続していたという来迎会に関わる像かとも想像されるが、来迎会の本尊として快慶が建仁元年(1201)に制作した同寺裸形阿弥陀如来像(なら仏像館にて展示中)の顔だちに13世紀初頭の作風が顕著なことからすれば、本像の制作はやはり建久6年に近づけて考えるべきだろう。浄土寺を創建した重源の信仰とどのように関わる像なのか、さらなる研究がまたれる。

山口 隆介(当館学芸部主任研究員)



■開館日時(4月～6月)

■開館時間/午前9時30分～午後5時

※特別展「大安寺のすべて」=4月29日～5月7日は午後7時まで
※名品展=毎週土曜日は午後8時まで。4月29日、5月1日～6日は午後7時まで

■休館日/毎週月曜日

※5月2日(月)は開館。

■無料観覧日(名品展のみ)/

5月18日(国際博物館の日)

■観覧料金 名品展・わくわくびじゅつギャラリー

	一般	大学生
個人(当日)	700円	350円

※高校生以下および18歳未満の方、満70歳以上の方、障害者手帳またはマイリDをお持ちの方(介護者1名を含む)は無料です。
※奈良国立博物館キャンパス(メンバーズ加盟校)の学生及び教職員の方は無料です。
※高校生以下および18歳未満の方と一緒に観覧される方は一般100円引き、大学生50円引きとします(親子割引)。

■観覧料金 特別展「大安寺のすべて」

	一般	高校・大学生	小・中学生
当日券	1,800円	1,500円	800円
前売・団体券	1,600円	1,300円	600円

※団体は20名以上。
※前売券は当館観覧券売場、近鉄主要駅、ローソンチケット(Lコード52100)、チケットぴあ(Pコード993-539)、イーラス、楽天チケット、CNプレイガイド(TEL:0570-08-9999)など主要プレイガイド、セブンイレブン他コンビニエンスストアで4月22日(金)まで販売します(チケット購入時に手数料がかかる場合があります)。
※本展は日時指定制ではありません。
※障害者手帳またはマイリD(スマートフォン向け障害者手帳アプリ)をお持ちの方(介護者1名含む)、奈良博プレミアムカード会員の方(1回目及び2回目の観覧)は無料(要証明)。
※奈良国立博物館キャンパス(メンバーズ会員(学生)の方は当日券を400円、同(教職員)の方は1,700円でお求めいただけます(要証明)。
※観覧当日に証明書・会員証などの提示が必要です(一般と小学生以下を除く)。
※館内が混雑した場合は、入場を制限する場合があります。
※本展の観覧券で、名品展(なら仏像館・青銅器館)もご覧いただけます。



[交通案内] 近鉄奈良駅下車徒歩約15分。またはJR奈良駅・近鉄奈良駅から奈良交通「市内循環」バス(外回り)「氷室神社・国立博物館」下車

※当館には駐車スペースがございませんので近隣の県営駐車場等(有料)をご利用ください。